

## 1. 化学物質及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当  
TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂 平成21年11月25日

化学物質等のコード : 0119-5252

化学物質等の名称 : 0-アニシジン(0-アミノアニソール)

## 2. 危険有害性の要約

分類の名称 : 有害性物質, 刺激性物質  
危険性 : 可燃性の液体  
有害性 : 飲み込んだり、吸入したり、皮膚に付着すると有害である。  
皮膚、眼、粘膜などを刺激する。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品  
化学名 : 0-アニシジン  
成分及び含有量 : 99%  
化学式または構造式 :  $\text{CH}_3\text{OC}_6\text{H}_4\text{NH}_2$   
分子量 : 123.15  
官報公示整理番号(化審法) : 3-0682  
構造別分類コード(労安法) :  
CAS No. : 90-04-0  
日化辞番号 :  
EINECS No. : 2019631  
RTECS No. : BZ5410000

## 4. 応急処置

目に入った場合 直ちに清浄な流水で15分以上洗浄し、眼科医の手当を受ける。  
吸入した場合 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、暖かくして安静を保ち、呼吸に異常が認められる場合は人工呼吸又は有資格者がいる場合は酸素吸入を行い、医師の診断を受ける。  
皮膚にふれた場合 汚染した衣類等は速やかに脱ぎ捨て、触れた部分を水または微温湯を流しながら洗浄した後、石鹸でよく洗い落とし、医師の手当を受ける。  
飲み込んだ場合 水でよく口の中を洗浄し、可能であれば吐かせる。意識がない場合は、決して吐かせようとしてはならない。安静にし、直ちに医療措置を受ける手配をする。

## 5. 火災時の処置

消火方法 ・適切な保護具を着用する。  
・火災を増大させる危険性があるものを、周囲から速やかに取り除く。  
・関係者以外は安全な場所に退去させる。  
・消火活動は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。  
・燃烧や高温により分解し、有毒なガスを発生する恐れがあるので注意する。  
・棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。  
消火剤 ・水噴霧  
・泡  
・粉末  
・二酸化炭素

## 6. 漏出時の措置

・風下の人を退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除き消火、用器材を準備する。作業の際には保護具を着用し、風上から作業すること。  
・流出した製品が河川等に排出され環境への影響を起さないように注意する。大量の水で希釈した場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないよう注意する。

・乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。  
残りは大量の水で洗い流す。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

### 取扱い上の注意

刺激性があり、皮膚から容易に吸収するので吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。  
蒸気の発散をできるだけ抑え、作業環境を許容濃度以下に保つように努める。  
装置のある場所で取り扱う。  
可燃性なので熱源、裸火との接触を避けて火気厳禁とする。

### 保管上の注意

密閉して直射日光を避け冷暗所に保管する。  
酸化性物質、有機過酸化物質などと同一場所に置かない。  
危険物の表示をして保管する。  
一定の場所を定めて保管する。  
消防法等の法令の定めるところに従う。

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 設定されていない。

許容濃度 ACGIH (98年)

TLV-TWA 0.1ppm(皮)

0.5mg/m<sup>3</sup>(皮)

日本産業衛生学会勧告値(98年) 0.1ppm

0.5mg/m<sup>3</sup>

OSHA PEL TWA 0.5mg/m<sup>3</sup>(皮)

MSHA TWA 0.1ppm(皮)

0.5mg/m<sup>3</sup>(皮)

### 設備対策

- ・屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。
- ・取扱場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

- ・状況に応じ、保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器等を使用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観形状特性 無色の油状の液体で、貯蔵時には赤色に変色する。

空气中で酸化されやすい。弱いアニリン類似臭

比重 約1.10

融点 5

沸点 225

溶解度 水に不溶。希酸及び有機溶剤に可溶

蒸気圧(hPa) 0.05(20 )

蒸気密度(空気=1) 4.25

## 10. 安定性及び反応性

引火点 98

可燃性 あり

発火点 437

加熱・燃焼 危険性有

1. 加熱により、有毒で爆発性の空気との混合気が発生する
2. 高温の表面、火花または裸火により発火。
3. 分解されるまで加熱または火災の場合、有毒、腐食性の窒素酸化物を生じる。

水との接触 危険性有

1. 水より重い。
2. 水に微量溶ける。
3. 水で希釈した場合でも、有毒な水溶液が生ずる。
4. 沈降する。

空気との接触 危険性有

1. 有害な可燃性固体。
2. 高い引火点(98 ~ 110 )。
3. 蒸気は空気より重い。

混触等 危険性有

1. アルコール、エーテルおよび希釈無機酸に溶ける。
2. この物質は強酸、酸塩化物、酸無水物および酸素に富む物質(強酸化剤)と接触するとき、反応する。

11.有害性情報(人についての症例、疫学的情報を含む)

毒性

急性毒性

LD50(経口)ラット 1,150mg/kg

LD50(経口)マウス 1,400mg/kg

変異原性

: 労働省;変異原性が認められた化学物質。

微生物;サルモネラ菌(-S9);陽性

染色体異常;ハムスター(生体外);陽性

がん原性

: IARC;グループ2B

その他 皮膚に触れた場合:1.この物質と接触すると、皮膚を刺激する。

2.皮膚からも体内に吸収される。

眼に入った場合:1.この物質と接触すると、眼を刺激する。

吸入した場合:1.この物質は眼、気道、皮膚を刺激する。

2.血色素の変化(メトヘモグロビン生成)が起こる。

12.環境影響情報

分解性・蓄積性:微生物等による分解性が良好と判断される物質。  
(化審法既存点検)

魚毒性:データなし

その他:

13.廃棄上の注意

可燃性溶剤に溶解または混合し、アフタバーナーおよびスクラッパー付きインシレーターの中で焼却する。

14.輸送上の注意

容器の破損、漏れが無いことを確かめ、衝撃・転倒・落下・破損の無いように積み込み、荷くずれ防止を確実に行う。

該当法規に従って取扱、包装、表示、運送を行うこと。

(国、都道府県並びにその地方の法規、条令に従うこと。)

輸送に関する国際規制

陸上輸送:データなし

海上輸送:データなし

航空輸送:データなし

国連分類番号:クラス 6.1 等級

国連番号:2431

15.適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法):第一種指定化学物質No.17(旧PRTR法 No.1-14)

労働安全衛生法:施行令等の一部改定第18の2別表

第9「名称等を通知すべき有害物」119

消防法:第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L)

危規則:第3条危険物告示別表第4毒物(P)N-上・下/上・下等級3

航空法:施行規則第194条危険物告示別表第9毒物M-等級3

16.その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社

労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2000)

化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編

化学大辞典 共同出版

安衛法化学物質 化学工業日報社

産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版

化学物質安全性データブック オーム社

公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) 三共出版

化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修

中央労働災害防止協会編

このデータは作成の時点における知見によるものですがかならずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。